

茨城大学農学部同窓会会報



茨城大学農学部同窓会会報 第6号
平成 16 年 1 月
発行元： 茨城大学農学部同窓会
〒300-0393 茨城県稲敷郡阿見町中央 3-21-1
代表者 赤塚 尹巳
電話 029-888-8553 (事務局, 月橋)

第 6 号

第 6 号内容

- ・ 地域に根ざした農学部キャンパスを目指して
- ・ 会長ごあいさつ
- ・ 農学部長ごあいさつ
- ・ われわれの活動報告
- ・ 卒業生のご活躍・教官の移動
- ・ 会計状況・編集後記

地域に根ざした農学部キャンパスを目指して



学内の散策順路を示す農学部プロムナードの案内板

農学部では、地域に根ざした学部づくりに努力してきましたが、平成十四年度から、地域貢献を具体的に進める特色ある大学作りの活動の一環として、附属農場を含む農学部キャンパス



月橋 輝男
(農学部 教授)

広大な農学部のキャンパスを地域の憩いの場に！

全体を地域住民の憩いの場として開放し、農学部をより一層身近に感じてもらうよう努力しています。このことは大学のPR活動の一環にも位置づけられ、目に見える大学開放にもつながります。

具体的には平成十五年度になってからですが、校舎地区、農場地区にそれぞれプロムナードを策定して案内板を設置し散策道を整備しました。校舎地区の前庭の沿道に植えられている樹木、特に農学部が収集した貴重な百二十種の桜に銘板をつけて、学生・教職員はもとより、一般市民や小・中学生の憩いと勉学の場、あるいは保育所や幼稚園児の景観を楽しめる安全な散歩道として利用されています。専門的な研究・調査のために訪れる人、四季折々の写真を撮るために訪れる人、犬の散歩のために訪れる人など目的はさまざまですが、学部のキャンパスを訪れる人は連日のように見かけるようになりました。一方、農場地区においても、土・日には子供づれの見学者が多くなっています。自然に親しみながらウォーキングを楽しんでいるという人も多いようです。

地域の住民に楽しく利用してもらうためには美観が必要です。庭園の管理は欠かせません。毎年二～三回のクリーン作戦と称する除草や清掃作業があります。研究棟の前の庭園は国立大学では有数の美しい庭園で、落葉樹が多い庭園です。それだけに紅葉時は非常に美しいですが、落葉時は清掃が大変です。しかし、年々このクリーン作戦に学生の参加が多くなってきてきていることは実に頼もしい限りです。

同窓会長「あいさつ」

会長 赤塚 尹巳



長引く不況のなかで日本の自衛隊も海外派遣が決定され、新しい流れが始まりつつあります。同窓会員の皆様方もつつがなく新しい年を迎えられたことと存じます。国立大学も平成十六年度から一斉に独法化が実施されますのでどこもかしこもてんやわんやの状況で、すつきりとした具体的動きは伝わってきません。これも適格なリーダー不在の大学が多く、当分の間は波のまにまに漂流を余儀なくされるでしょう。

さて、同窓会として書き留めておきたい事はこの農学部が阿見の地に苦節二十余年をかけてようやく建設できた事実経過をなるべく正確にしかも率直に書き残しておく必要があると思っております。茨大五十年史にみられるような実現できなかった農学部移転問題の経過など並べたてたところでもうにもならない紙面の無駄ではないでしょうか。

最近、農学部の大塚地区移転問題について、ある退職教官により書かれたものを読む機会がありました。この問題のキーポイントを抜かし、て論評しているので指摘しておきたい。この問題の発端は、一県一医大の国の方針により茨城県は茨大に医学部を設置するのがどうか。設置するとすれば農学部と医学部のキャンパス用地を同時に確保し、加えて茨城県は財政難貧乏県だったので協力しかねる。その代わりに

筑波大学に医学部を設置して貰えば、一県一医大の方針はクリアできるといっているので茨城県は筑波に乗り換えたので、その時点で大塚地区の用地確保の問題は消滅したわけです。

その後、理学部が農学部と一緒にキャンパス用地を確保したいという話は出たが、本腰は入らなかった話である。同じようなことは後年、農学部移転キャンパスと社会科学部設置構想をめぐり話があった場合も本腰が入らなかったことは知る人ぞ知る話である。そんなわけで実現しなかった話にはその時の社会情勢、県の対応、水戸地区のおもわく、農学部の対応そして文部省の見解がそれぞれあって、まとまらないために実現しなかったわけで、一方的見解など殆ど意味ないことである。

ともあれ大学は独法化でしばらくの間波のまにまに漂うことでしょう。そんななかにあつて、これからの農学部同窓会のあり方をめぐってはいろいろの意見があると思います。会員名簿の作製は必要最低限の事業です。

小さいながらもキャンパスの中に同窓会館ができたのですから、これを利用していろいろな会合をやって頂きたい。親睦のみならず、現農学部との交流、国際的な交流、地域間交流、同業種間交流、異業種間交流、若老年交流、趣味同好会の交流、研究業績の公開、講演会等の交流などあげれば限りなくあるように思います。会員の皆様からユニークな意見を出して貰い、我々の同窓会を活性化して貰いたいと思っております。どうか皆様方の御意見をお寄せください。最後に会員諸氏の御活躍と御健康をお祈りいたします。

農学部長「あいさつ」

松田 智明



茨城大学農学部同窓会員の皆様、新年明けましておめでとございます。よいお年をお迎えのことと存じます。同窓会員の皆様方には農学部に対する物心両面からの様々のご支援をいただき心より感謝申し上げます。

昨年度は、農学部のキャンパス内部にプロムナード(散策路)を設定して市民に解放しました。半年以上が経過して市民の散策が増加してきております。また昨年度は、農学部の教育、研究、社会貢献などの諸活動について、学外の委員を招いて外部評価委員会を開催し、評価を受け、将来に向けた建設的な指摘もいただきました。その報告書は現在とりまとめ中ですが、全体的には高い評価を受けることができました。

最近、国立大学の独立行政法人化(独法化)に関するニュースがマスコミに取り上げられなくなりましたが、四月一日に予定通り独法化されました。昨年来、大学は独法化の準備で本来の機能が損なわれるほどです。大学として昨今の厳しい経済情勢の影響を受けるのは当然という議論もあります。教育・研究の拠点である大学は経済情勢などには超然として将来を担う人間育成に専念したいものです。しかし、武士は食わねど高楊枝とばかり言っていられない状況が生まれる可能性があります。独法化はとくにいわゆる地方大学にとってきわめて厳しい状況を作り出します。このような想定される状況の中で、

独自色を強め、質の高い教育・研究を確保する多様な改革が必要です。

四月からの農学部飛躍が期待されます。農学部飛躍のために、同窓会員の皆様からも關心をお寄せいただき、見守っていただきますようお願い申し上げます。

われわれの活動報告

霞光会について



霞光会会長 市毛 壽彦
(昭和四十五年農化卒)

本会は茨城大学農学部及び同大学院を卒業した茨城県の高校教員からなり、会員三十七名及び特別会員二十六名(退職者)によって構成されており、会員相互が親和協力一体となつて、茨城県教育の充実に努力するとともに、会員の啓発・親睦を図る目的で昭和五十二年二月二十日に発足いたしました。

会員の多くは農業高校に勤務しており、本県農業教育の中心的な役割を担っております。学校教育を取り巻く環境、特に農業高校にとっては厳しいものがあります。そのような中で専門教育の充実や特色ある学校づくりに努めるとともに農業クラブ活動等では相互に情報交換を図りながらライバルとして各部門の最優秀を目指し切磋琢磨しております。

農業高校の卒業生が農学部推薦入学させていただきますこと、この紙面をお借りし

て御礼申し上げます。また、農学部の後輩が農業教員として本県農業教育に関わっていただきたくお願い申し上げます。

(現 鉾田農業高等学校 校長)

農学部弓道場と弓道部について

西連寺 治(昭二十六年農卒)

農学部のキャンパスが面目一新して以来、新弓道場も新学生寮の手前に立派な佇まいを見せている。清掃等はなされているようであるが、人影が無く閑散としており、果して弓が引かれているのだろうかとの気がする。

私共の在学時の弓道場は、山岸、緑川、鈴木先輩方が、当時の中原重樹学部長、板倉昭助教のご協力を得て、旧海軍の建物の取壊材を利用して、自前で作ったものであった。従つて、安土の方は砂が崩れない程度の屋根はあつたが、射座の方は台のみの青天井で、実に清々と伸々としたものであつた。当時の学生寮霞光寮と植木園の間の桜の古木並木に沿つていて、天気の良いときは快適であつたが、夏の強い日差し、冬の寒風吹き荒ぶ中では、かなりの忍耐力を必要としたものである。極めて開放的であるため誰の目にも入り、弓道部員が練習していると一寸弓を持たせてくれないか等との声も掛り、それを機に弓道をやってみよつとの人も結構おり、約十五名の弓道部員の半数ほどは、農学部に来たからの部員であつた。私共の卒業数年後、当時の全日本弓道連盟会長の中野慶吉範士が私財を投じて屋根のある形の整つた弓道場を同じ場所に建設して下さつたと聞いている。

もし現在の新弓道場があまり使われていないとすれば、誠にもつたないことで、是非とも

活用してもらいたいものである。部員が不足しているのであれば、部員の方々に頑張ってもらつて、希望者を募つてはどうか。もっとも弓道は初めが大切で、核となる人が、居ることが望ましい。部員だけでは負担が重すぎることも考えられるので、どなたか卒業生で、弓を引きたい後輩に手解きをして下さる方は居られないものか。そう言う私は、割合近くの牛久市に住んで居り、時間が許せば、後輩と共に弓を引かせてもらいたく思っているが、叶わない。弓道部員のご活躍を願いたい。

馬術部の活動について

現在、馬術部では今年導入した二頭を含め八〜二十八歳の五頭を所有し、毎日世話と練習に励んでいます。ぎりぎりの財政状態ですが、大会出場を目指し頑張つていきますので暖かい御支援をよろしく願います。

(馬術部長 北之防 佳奈)



鍬耕祭(曳き馬)に参加されたお客様と馬術部員で記念写真

農学部動き

第五十五回秋耕祭の開催

第五十五回秋耕祭が平成十五年十一月一日と二日の二日間にわたって『伝統芸農』といテーマで開催されました。

熱心に説明を受ける在学生と就職説明会で講師を勤める本学同窓生



例年同様、収穫祭、餅つき大会、各サークル・グループの模擬店や展示が展開されたのははじめ、今年はステージでの演奏やパフォーマンス等が増えたため、会場内に二箇所のステージを設置し、イベントが催されました。この、ス

テージでのイベントにはバンドを組んだ同窓生の姿もあり、大変な反響をいただきました。さらに、秋耕祭の開催中には、昨今の就職難を受けて、就職説明会が開催され、講師として同窓生の有志の方々にもご協力をいただきました。ここに御礼申し上げます。

卒業生のご活躍

(山口 治行さん)

(昭四十二年 農工卒)



農業工学専修を卒業して早三十五年が過ぎようとしている。この間多くの恩師(特に佐野文彦先生)、先輩、後輩に大変お世

話になりながら、一貫して農業・農村整備事業の設計コンサルタントに従事してきた。ほんの少しだけ農産物の発展に寄与してきたつもりである。しかし、最近の「なにがなんでも公共工事不要論」には、いささか疑問を感じる。平成十五年秋の衆議院選挙にあたって民主

党のマニフェストを見ると、公共工事に農業土木事業が目の敵になっている。一例として、諫早湾干拓はマスコミに大々的に取り上げられ、事業そのものが悪者扱いである。しかし、農業土木事業が反省すべき点は大いにあると思う。農業・農村基本法が改正され、すべての事業が環境との調和を配慮しなければ採択されないこととなった。我が国の食料自給率は先進国の中でも最低の40%である。我々は、これの改善のため、環境との調和に配慮しつつ、生産性の向上という難しい課題に取り組んでいかなければならない。(現、共栄設計(株)代表)

中村 豊氏が農学部附属農場長に

本学部卒業生である中村 豊(昭四十四年 畜卒)氏が農学部附属農場長に選出されました。今後のご活躍をお祈りいたします。

教官の移動(平成十五年一月〜同年十二月)

平成十五年三月三十一日

退職 教授 永田 徹 (停年退職)

退職 教授 平野 綏 (停年退職)

退職 助手 森光太郎 (辞職)

同年四月一日

昇任 教授 佐合隆一 (附属農場)

昇任 教授 柏雅之 (緑環境システム科学)

昇任 助教授 中村耕一郎 (緑環境システム科学)

転任 助教授 上妻由章 (応用生命科学)

同年十月一日

昇任 助教授 長南 茂 (応用生命科学)

昇任 助教授 中島雅己 (植物生産科学)

会計状況(平成十三年度)

収入の部 項目(金額) 入会金(二十五万円) 年会費(百八十五万七千五百円) 事業費:名簿売上代(一万五千六百円) 雑収入:預貯金利息(七百八十円) 前年度繰越金(三十二万七千七百円) 合計(二百四十四万五千五百八十円)

支出の部 事業費:五十周年記念事業事務費:礼状、収支明細書、芳名録(二十三万四千六十三円) 同窓会館増築支援費(五十万円) 国際交流基金:寄付(三万円) 同窓会報:用紙、印刷代、発送作業料(六十七万四千六百九十九円) 事務経費:会議費(三万二千四百円) 印刷費(四千二百円) 消耗品費(六千四百六十円) 雑費(千五百七十五円) 次年度繰越金(九十六万六千四百十三円) 合計(二百四十四万五千五百八十円)

編集後記

事務局として同窓会の発展のために活動して参りましたが、平成十六年三月でお蔭様をもちまして私も停年を迎えることになりました。来年度からは、正木先生が幹事を担当されることになっていきます。来年度から、茨城大学も法人化されます。今後とも農学部の発展のために、同窓会員の皆様のご支援、ご声援は欠かせませんので、よろしく願います。併せて、会費の納入の方もよろしく願います。(月橋)